

② 2024年度経営学部

PLAN(計画)		DO(実施)		CHECK(評価)		ACITON(次への改善)	
P:目標を策定、実現するための具体的な方法を考える。 KPIとしてベンチマークも計画に入れてください。		D:計画を実行しその効果を測定する。		C:目標とその実践の差異、実践した行動の評価・分析を行う。		A:課題や問題点についての改善、対策を行い、次への「PLAN」へ繋げる	
				評価	評価の理由/課題/根拠データ等		
1. 志願者数の増加 KPI: 志願者数900人以上(昨年度実績: 796人) (1) 総合型選抜の選抜方法の見直し (2) 高校へのアプローチ強化 ① 優秀な学生を推薦する高校に推薦枠増設 ② 地方(静岡、山梨、茨城等)の高校へのアプローチ		結果: 今年度出願者数884人(経コミ460人、マケデザ397人) 参考: 昨年度出願者数796人(経コミ399人、マケデザ397人)		98%	KPIをほぼ達成した。当年度は併願型総合選抜を追加したことが奏功したと推察する。	入試広報のデータ	
2. 定員の充足 KPI: 両学科とも定員130人を確保(昨年度実績: 経コミ134人、マケデザ140人) (1) 年内入試の割合引き上げ KPI: 両学科とも95%以上(昨年度実績: 経コミ72.4%、マケデザ90%)		結果: 今年度入学者318人(経コミ153人、マケデザ165人) 参考: 昨年度入学者数274人(経コミ134人、マケデザ140人)		100%	KPIを達成した。上述の併願型総合選抜の歩留まり率が想定より高い48.6%だったことと、指定校推薦の志願者数が多かったためと推察する。	入試広報のデータ	
3. 退学率の減少 KPI: 3%(昨年度実績: 5.5%) (1) 留年制度の廃止も含め包括的に検討		結果: 昨年度退学率6.9%(1年8.2%、2年11.6%、3年1.3%、4年5.1%) 参考: 留年退学率5.5%(1年6.0%、2年9.0%、3年2.0%、4年4.5%)		0%	KPIを大きく下回った。毎年の傾向として2年生3月の退学者が多い。この原因として考えられるのは次の4点である。 ①ゼミ配属が2年次から3年次に上がったことによる、指導教員によるグリップが弱体化 ②必修科目増加に伴い、それらが不合格となったことによる卒業への自信の喪失 ③留年制度(基準: 取得単位数42単位未満のものは3年次への進級不可) ④定員を大幅に越えて受け入れたことによる、指導が行き届かなかったため 求人需要が旺盛だったという外部環境の改善があったことと、就活早期化に対応しあらゆるイベントを早期化したことが奏功し、昨年度より向上したが、目標には至らなかった	教務グループ資料	
4. 実就職率の向上 KPI: 実就職率92%以上(一昨年度実績: 88.2%) (1) 男子学生に重点的にキャリア指導 (2) 就活早期化に対応しキャリア指導の前倒し (3) キャリア関連科目の新カリへのスムーズな移行		結果: 昨年度実就職率88.2%		98%	男子学生の方が就職率が低い傾向にあるため、重点的に指導する。	キャリアセンター資料	
5. 研究活動の活性化 KPI1: 科研費申請、共同研究、学長裁量経費の申請数の向上 KPI2: 紀要の投稿数の増加 (1) 研究日、長期休暇のスケジュール確保 (2) 無駄な仕事の排除 (3) 研究会の企画		KPI1: 科研費申請3件、採択1件 共同研究申請5件 学長裁量経費申請2件		70%	科研費は2023年度は申請5件、採択0件であったので、申請は減少だが採択は増加 共同研究と学長裁量経費については例年並み	総合研究所資料	
						2025年度採択された代表者に、FDで採択された経緯やノウハウを話してもらう	

② 2025年度経営学部

PLAN(計画)	
P:目標を策定、実現するための具体的な方法を考える。 KPIとしてベンチマークも計画に入れてください。	
1. 志願者数の増加 KPI: 志願者数1,000名以上(実績: 昨年度884名、一昨年度796名) (1) コンテンツシフトの周知 (2) 集客イベント実施: 7月0C、10月学園祭	
2. 厳密な定員管理 KPI: 両学科とも定員の100%~110%の入学者に収める (昨年度実績: 経コミ153名(118%)、マケデザ165名(127%)) (1) 厳密な予実管理 (2) 年内入試での他学部への第二志望制度導入	
3. 退学率の減少 KPI: 4%(昨年度実績: 6.9%、一昨年度実績: 5.5%) (1) 2023年度より新カリでゼミ配属を3年次に引き上げたが、2年次に戻すことを検討 (2) 必修科目を中心に、できるだけFがつかないようなきめ細やかな指導を担当教員に依頼 (3) 留年制度の廃止も検討 (4) 別項目にて対策実施	
4. 学科名変更の確実な遂行 KPI: トラブル0件 (1) 適切な学科名の選択: アンケートの結果等を参考に (2) 文科省とのコミュニケーションの確実な実施	
5. 研究活動の活性化 KPI: 科研費等の研究助成への申請数と採択数の向上(昨年度実績: 申請3件、採択1件) (1) 昨年度採択された教員を講師とするFD研修の実施	